

こども環境学習講座 エコっこスクール 2013 (第3回)
「海辺の生きもの観察 in つのしま」

- ★日 時 平成25年7月30日(土) 8:30~17:30
★場 所 東法湾、つのしま自然館(下関市豊北町)
★参加者 36名

1. スケジュール

- 8:30~ 8:40 開講式
10:30~12:30 東法湾:海辺の生きもの観察
12:40~13:30 昼食、休憩
13:30~14:00 つのしま自然館
海の生きもの環境と海岸の環境保全について(講義)
14:00~15:00 海岸の植物観察
15:00~15:30 ツノシマクジラについて(施設見学等)
17:30~17:30 アンケート記入・閉講式、解散

2. 講 師

- 豊北町自然観察指導員 小林 知吉 氏
豊北町自然観察指導員 藤岡 達雄 氏
山口市立仁保小学校教諭 杉村 智幸 氏

3. 活動内容

【海辺の生きもの観察】

杉本先生より、図を用いて生きもの進化の流れや脊椎動物以外は海岸で見ることが出来ることや、海岸線の生きもの体の不思議や棲み分けなどを注意して観察するよう説明と怪我や触ってはいけない生きものなどの注意を受けたのち、東法湾へ移動し、海辺の生きもの観察を実施した。

観察中に見つけた生きもの	
・カモンタカラガイ	・カメノテ
・マツバガイ	・クロフジツボ
・ハナマルユキタカラガイ	・クロアワビ
・チャイロキヌタ	・ <u>マガキガイ</u>
・フジキヌタ	・エボンガイ
ほか	

生きものではないが貝殻の化石も見つけることができた。

下線のついている貝はもともと沖縄より南にしか生息していない貝であったが近年は温暖化の影響で近隣の海岸でも生息が確認されているとのこと。

その他にも打ち上げられた漁具を見せながら、使用方法の説明もあった。



【海の生きものの環境と海岸の環境保全について】

つしま自然館でプロジェクターを使用し、海流と生きものの分布や温暖化について学習した。また、クジラやカメなどがエサと間違えて漂流物（主にビニール類）を誤飲し死亡していることなど、海の環境保全についても学習した。

【海岸の植物観察】

つしま自然館の近くの大浜海岸で海岸の植物観察を行なった。

観察した植物	
・ハマヒルガオ	・ハマタマホウギ
・ハマゴウ	・ケカモノハシ
・ホウボウムギ	・カワラヨモギ
・オカヒジキ	・ハマユウ
	ほか



海浜植物は水を求めて根を砂の中に長く伸ばし、砂をしっかりとつかまえるため、砂が飛ぶのを防ぐ働きがあることなどを学習した。観察中、参加者の2人は小型のクジラの骨を採取した。角島周辺の浜辺の砂は貝殻が細かく砕けたものを多く含んでいるので、白っぽい色をしてサラサラしている。近隣の土井ヶ浜遺跡が残ったのはそのためである。（骨の成分と同じカルシウムが多く含まれているため。）

【ツノシマクジラについて】

展示室でツノシマクジラ（平成10年角島沖で発見された新種のクジラ）の骨格標本（レプリカ）やパネル等を用いてツノシマクジラについて説明を受けた。

実際のクジラのひげや、植物観察時に採取したクジラの骨が展示してあり、シロナガスクジラ（体長12m～15m）の骨と比較して形や大きさを観察した。



4. まとめ・感想

参加申込者が47人と定員を超えたため、抽選で36人（こどもエコレンジャースクール13人を含む）とし実施した。当日は朝に雨が降ったが、東法湾到着の40分前には上がり、屋外の活動も無事実施することができた。

今回は、東法湾において、海辺の生きものを実際に採取しながら特徴や生態を学ぶことができ、参加した子ども達は海辺の生きものを身近に見て、触る機会が少ないため貴重な体験になったと思われる。

午前・午後ともに野外での活動を行ったため、午後の活動中に体調不良を訴える子どもが出たので、日陰のない場所での屋外活動は半日が限界と考えられ、来年度の夏のエコっこスクールの日程等を検討したい。